

2014年後半戦
為替要因の変化と
株式市場のテーマ&銘柄

為替の変動要因の変化



従来の為替変動

従来、為替を動かす要因は、大きくは以下の3つと言われる。
資金の性格によって、何が主な変動要因となるかは異なる。

金利差（投機資金）

- 為替は、金利が低い国から高い国へ流れる

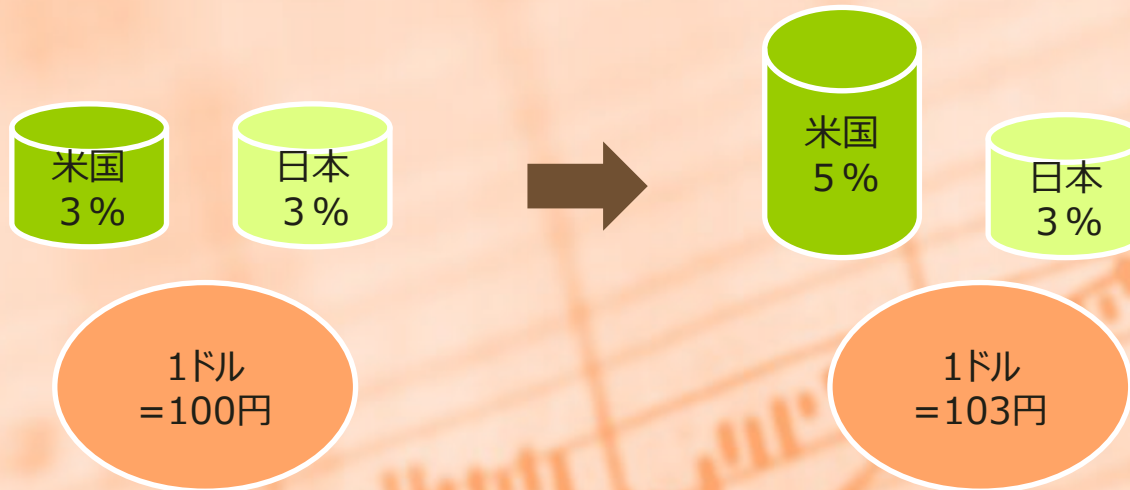
経常収支（貿易資金）

- 経常収支の黒字が大きい国の通貨は高くなる

財政状況（債権運用資金）

- 財政状態の良い国は、通貨が高くなる

投機的資金・・・金利差による為替の変動



米国金利が、日本の金利と比べ、相対的に上昇すれば、ドル高・円安に

収益にこだわる投資資金は、運用効率を求め、金利が高い国のほうへ流れる。従って、日米の金利差が変動すれば、それによって、米ドルの対円相場は変動する。

米国金利上昇or日本金利下落・・・ドル高（円安）
米国金利下落or日本金利上昇・・・ドル安（円高）

が、基本的な動きとなる。

輸出入資金・・・経常収支による為替の変動

貿易事業者は、実需として、為替を売買する。輸出業者は常に円を買う勢力であり、輸入業者が常に円を売る勢力。

輸出が増えると円高になりやすく、輸入が増えると円安になりやすい。しかし、円高になると、輸出業者には不利となり、円安になると輸入業者には不利になる。

このことは、輸出入が一方向的にならないような、自動調節機能となっている。



債券運用資金・・・財政状況による為替の変動



財政状態が悪化する（財政赤字の拡大など）と、国債の償還に対する安全性が低下し、格付け（B～AAAなど）が低下する場合もある。
いずれにしても、債券市場では国債に対する売却圧力が高まり、同国の通貨も下落する。

30年間の円ドル推移と関連指標

